

平成 21 年 6 月 3 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520002

研究課題名（和文） 近代修道制とカトリック的倫理教育に関する研究

研究課題名（英文） A Study on Modern Religious Orders and Catholic Ethical Education

研究代表者

桑原 直己 (KUWABARA NAOKI)

筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・教授

研究者番号：20178156

研究成果の概要：西欧における初等・中等学校の成立に際しては近代、カトリック修道会、特にイエズス会などを初めとする活動修道会(教育修道会)の役割は決定的であった。本研究では、従来我が国ではあまり顧みられなかった修道会の設立による初等・中等学校における教育活動およびその基盤としての修道霊性について、その倫理的・倫理思想史的な意味を明らかにし、世俗的な「公教育」における道徳・倫理教育およびその理念との比較研究を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	450,000	2,850,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・倫理学

キーワード：近代修道制、霊性史、カトリック学校、倫理教育、宗教教育、イエズス会

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究に先立ち、研究代表者は平成 15～17 年にかけて研究課題「非主我的愛の成立基盤としての修道院霊性に関する研究」（基盤研究(C)(2)、課題番号 15520004）により科学研究費補助金を受け、修道霊性史全般およびその倫理的意義についての知見を蓄えてきていた。

(2) 同時に、研究代表者は自らが編集委員長を務める「カトリック教育学会」およびカトリック学校において宗教科・倫理科を担当する教員による「ワークショップ」等を通じてカトリック系の初等・中等教育の現場との接点を有していた。

(3) さらに、研究代表者は「日本倫理学会」において数年にわたり道徳教育の倫理的検討をテーマとする「ワークショップ」を企画し、また大学院教育研究科にも出講して、公教育における倫理教育・道徳教育との接点を有していた。

このようにカトリック学校での宗教・倫理教育、および公教育での倫理・道徳教育との両面において、倫理学が初等・中等教育に寄与する可能性を追求していた背景もあって、研究代表者は前回の研究課題「非主我的愛の成立基盤としての修道院霊性に関する研究」を初等・中等教育との関連において発展させ

る本研究を着想するに至った。

2. 研究の目的

西欧の教育史において、大学(高等教育機関)の成立は中世にまで遡るが、初等・中等教育における学校の歴史はむしろ新しく、その成立は近代においてのこととされている。我が国ではあまり知られていない事実であるが、その際にカトリック教会における修道会、特にイエズス会などを初めとする近代以降に成立したいわゆる活動修道会(教育修道会)の役割は決定的であった。世俗化された「公教育」としての学校は、フランス革命および啓蒙主義などの影響のもとに、後になって成立したものである。

本研究は、従来我が国ではあまり顧みられることのなかった修道会の設立による初等・中等学校における教育活動、およびその基盤としての修道院霊性について、その倫理的・倫理思想史的な意味を明らかにし、公教育における道徳・倫理教育およびその理念との比較研究の基礎を得ることを目的とする。具体的には、

(1) 学校の設立母体である教育修道会の霊性を、キリスト教修道院霊性の歴史全体の中に位置づけた上で、その倫理思想史的な意味を明らかにすること。

(2) 教育に関わる代表的な修道会として特にイエズス会と聖心会とを取り上げた上で、その設立による学校における教育活動について、①その教育理念、②その倫理的機能の中核をなす宗教教育、③いわゆる「見えないカリキュラム hidden curriculum」までも含めた学校の教育活動全体の機能、という三つの視点からの調査研究を行い、それらのもつ倫理的な意義を解明すること。

(3)(1)で解明した修道会の霊性が、(2)で解明した学校での教育活動にいかに関係し、結実しているか、を明らかにすること。

(4)(1)～(3)で解明した修道会の霊性およびその設立による学校の教育活動の意義を、世俗的な「公教育」における道徳・倫理教育およびその理念と比較研究すること。

3. 研究の方法

本研究は、(1)文献的研究と(2)修道会および学校に対する訪問による調査研究とから成る。

(1)文献的研究

①カトリック学校に関して、教育に関わる修道会の会則等、修道霊性に関する基礎資料、修道会の教育理念に関する基礎資料(例えば

イエズス会の「学事規定 Ratio Studiorum」のような性格のもの)、学校個別の沿革、教育理念、教育活動の実際などに関する基礎資料。

②比較対照としての世俗的な教育理念に関わる諸教育思想に関する文献、これにもとづく世俗的公教育における学校の実際に関する教育史的な諸一次資料。

③これらに関する二次的な研究文献を蒐集し研究する。

(2)訪問を中心とする調査研究

(1)の文献調査のみでは明らかにできない実際について修道院および学校の訪問による調査を行う。

4. 研究成果

「5」で詳述するように、著作および論文等を通じて研究成果を発表した。

(1) まず平成20年度6月13日に、本研究に先行しその土台となっている前回研究「非主我的愛の成立基盤としての修道院霊性に関する研究」の成果に基づき、拙著『東西修道霊性の歴史—愛に捉えられた人々—』を知泉書館から公刊した。同著は、エジプトの隠修士に始まる修道制の端緒から、中世盛期における托鉢修道会の成立までの修道霊性史の倫理思想史的意義を包括的に扱ったもので、今後の古典的研究となるものと自負している。今回の研究では、この著作で扱いきれなかった中世末期から近・現代までの修道霊性史について扱っているため、今回の研究成果をこの著作の続編として公刊する予定である。

(2) 実は、本研究の対象となっているカトリック学校教育を主導してきた修道会は、第二バチカン公会議以降のカトリック教会における情勢変化の結果、その成員の減少と高齢化に直面し、伝統が断絶する危機に置かれている。研究代表者自身編集委員長を務める「カトリック教育学会」は、初等・中等教育における学校教育現場の教員とアカデミックな研究者とが場を共有する学会であるが、この学会活動そのものが、修道霊性が蓄積したものの本質的な要素をいかにして信徒や一般教員が継承してゆけるのか、という課題に直面している。研究代表者が助言者として関与してきた宗教科・倫理科を担当する教員による「ワークショップ」もそうした背景における主として信徒教員による運動である。本研究は、そうした活動においてカトリック教育における修道霊性の意義を再評価する際の拠り所となるものと考えられる。

(3) 研究代表者が数年にわたり日本倫理学会における「ワークショップ」において、初等・中等教育の現場に倫理学が寄与する方途を探ることの重要性を訴えてきたことが徐々に認められ、平成 20 年の日本倫理学会大会では、学会の正式プログラムとしての「主題別討議」の形で取り上げられるに至った。また、日本倫理学会のみならず、日本哲学会、日本宗教学会、日本印度学・仏教学会が、高等学校における倫理教育の意義を検討する必要性を認めるに至り、研究代表者を委員長とする「哲学系 4 学会高校公民科教育連絡会」が組織されるに至った。今後は本研究をさらに「公教育」との比較研究にまで発展させることにより、公教育における倫理教育・道徳教育の倫理学的意義の検討に学会レベルで対応することに寄与しうるものと考えられる。

(4) 研究自体の学術的価値および発展性としては、本研究で特に注目した 16・17 世紀の草創期におけるイエズス会の教育理念についての研究は、倫理想史的観点からはまだ未開拓な分野であり、今後さらに大きな発展性が期待できる。特に、いわゆる「キリシタン時代」における日本を含むアジア宣教の場面におけるイエズス会教育は、西洋思想と東洋思想との対話ないしは対決の場をなすものである。具体的には、当時のイエズス会はその人文主義的な教育理念を日本社会に適応せしめると共に、哲学的にはトマス・アクィナスの註解のもとに解釈されたアリストテレスの『靈魂論』を導入することにより、仏教哲学との対話に向けての準備を行っていた。この方面での研究は、研究代表者自身の出発点となるトマス倫理学研究の直接的発展ともなる。この角度からの研究を進めるならば、国際的なレベルでの発信につながる研究となることが期待できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 15 件)

- (1) 桑原直己、「道徳教育 (あるいは「心の教育」) についての倫理学的検討」(日本倫理学会第五九回大会主題別討議報告、日本倫理学会編『倫理学年報』第 58 号、査読無、p.67-77) 2009 年
- (2) 桑原直己、「近代修道制と女子教育—聖心会学校を中心に」(筑波大学倫理学研究会編『倫理学』第 25 号 査読無、p.1-16) 2009 年
- (3) 桑原直己、「キリシタン時代における日本のイエズス会学校教育」(筑波大学哲学・

思想学系『哲学・思想論集』第 34 号 査読無、横書き部 p.1-15) 2009 年

(4) 桑原直己、「近代修道制の展開と世俗的国家」(清泉女子大学人文科学研究紀要第 30 号、査読無、p.153-170) 2009 年

(5) 桑原直己、「『イエズス会学事規程』におけるイエズス会学校」(清泉女子大学キリスト教文化研究所年報第 16 号 査読無、p.27-49) 2009 年

(6) 桑原直己、「隠修士と共住修道院—その東方的起源と西方的展開について—」(東方キリスト教学会編『エイコーン』第 38 号、査読有、p.4-p.22) 2008 年

(7) 桑原直己、「『カトリック教育研究』創刊 25 周年特別企画 「日本における「戦後カトリック教育の歩み」」総括」(日本カトリック教育学会編『カトリック教育研究』第 25 号、査読有、p.112-p.120) 2008 年

(8) 桑原直己、「日本におけるカトリック学校の現状と課題」(清泉女子大学人文科学研究紀要第 29 号、査読無、p.303-318) 2008 年

(9) 桑原直己、「西方修道制における二つの伝統……西方修道制における二つの伝統」(清泉女子大学キリスト教文化研究所年報第 16 号、査読無、p.29-50) 2008 年

(10) 桑原直己、「トマス・アクィナスにおけるカリタス理論のキリスト教的意味について」(筑波大学哲学・思想学系『哲学・思想論集』第 33 号 査読無、横書き部 p.31-47) 2008 年

(11) 桑原直己、「托鉢修道会の時代」(筑波大学倫理学研究会編『倫理学』第 24 号 査読無、p.1-p.17) 2008 年

(12) 桑原直己、「トマス・アクィナスと『ニコモス倫理学』—徳倫理の継承およびその変容—」(ギリシャ哲学セミナー編『ギリシャ哲学セミナー論集』Vol. IV / 2007, 査読有、p.48-63) 2007 年

(13) 桑原直己、「「使徒的生活」を求めて—11・12 世紀の隠修士運動」(筑波大学哲学・思想学系『哲学・思想論集』第 32 号、査読無、横書き部 p.57-p.72) 2007 年

(14) 桑原直己、「トマス・アクィナスと東西キリスト教のパラダイム」(東方キリスト教学会編『エイコーン』第 34 号、査読有、p.25-p.43) 2006 年

(15) 桑原直己、Nikitas Stithatos on Stages of Progress in the Spiritual Life: From the Viewpoint of a Japanese Translator, In *Prayer and Spirituality in the Early Church: vol.4, The Spiritual Life* p.199-212 (Edited by Wendy Mayer, Pauline Allen and Lawrence Cross c Centre for Early Christian Studies 2006) First published in Australia in 2006 by: St Pauls Publications、査読有

〔学会発表〕(計6件)

- (1) 桑原直己、「隠修士と共住修道院—その東方的起源と西方的展開について—」(教父研究会第126回例会 於 明治学院大学 2008年12月13日)
- (2) 桑原直己、「『靈操』の靈性を一般に紹介するに際して、いかなる語り方が考えられるか—近代修道靈性史における『靈操』—」(カトリック神学会第20回全国大会 於 南山大学 2008(平成20)年9月15日)
- (3) 桑原直己、「隠修士と共住修道院」(東方キリスト教学会第四回シンポジウム 提題 於 蓼科高原 ホテルハイジ 2008(平成20)年8月29日)
- (4) 桑原直己、「宗教色なき宗教教育?—『心のノート』をめぐる諸言説の検討—」(カトリック教育学会第31回全国大会 於 上智大学 2007(平成19)年9月8日)
- (5) 桑原直己、「On Human Nature: Aquinas and Eastern Christianity (the West Pacific Rim Patristics Society Conference 3, 2006, 1 Oct. Nanzan University Nagoya Japan)
- (6) 桑原直己、「トマス・アクィナスと『ニコマコス倫理学』—徳倫理の継承およびその変容—」(ギリシア哲学セミナー 於 駒沢大学 2006(平成18)年9月10日)

〔図書〕(計2件)

- (1) 桑原直己、『東西修道靈性の歴史—愛に捉えられた人々—』(知泉書館, 総頁数301頁) 2008年
- (2) 桑原直己、宮本久雄、大森正樹『フィロカリアI』(共訳、新世社、総頁数303、担当p.51-161) 2007年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桑原 直己 (KUWABARA NAOKI)

筑波大学・大学院人文社会科学研究所・教授

研究者番号：20178156